



文部科学省

再生・細胞医療・遺伝子治療研究の 在り方に係る検討会について

令和3年3月

文部科学省

経緯

再生・細胞医療・遺伝子治療開発協議会における政府全体の研究開発に係る議論を踏まえ、文部科学省において、現行事業である「再生医療実現拠点ネットワークプログラム（令和4年度まで）」終了後の本分野における事業に係る検討を開始

→ 「再生・細胞医療・遺伝子治療研究の在り方に係る検討会」を開催

検討事項とスケジュール概要（予定）

- | | |
|----------------|--|
| 【第1回】 3月5日 | ・ 現状確認① |
| 【第2回】 4月20日 | ・ 現状確認②
・ 新規対象領域（遺伝子治療）の方向性 |
| 【第3回】 5月頃（見込み） | ・ 継続対象領域（再生・細胞医療）の方向性
・ 病態解明・創薬研究への活用方策 |
| 【第4回】 6月頃（見込み） | ・ 中間とりまとめ（支援策の骨子）議論 |

第1回（3月5日）における議論の概要

【議事】

- 文部科学省からの現状説明（政府の検討状況、海外の動向等）
- 有識者（大阪はびきの医療センター：松山晃文先生）からの本分野に関する研究開発動向に関する情報提供

【主な意見】

1. 再生・細胞医療・遺伝子治療全般

- 日本の強みである再生医療を軸に、親和性の高い遺伝子治療との融合領域へ発展させるべき。
- 再生・遺伝子治療に関係する工学系研究との連携を期待。
- 再生・細胞医療・遺伝子治療それぞれに対する今までの支援について詳細を知りたい。

2. 再生・細胞医療

- iPS細胞を用いた病態解明・創薬スクリーニングが伸びている。
- iPS細胞では、自家移植のコストダウンに資する研究に期待。
- ES細胞とiPS細胞はバランスをとっていくのが重要。

3. 遺伝子治療

- 非臨床研究から臨床研究へのより早い展開が可能。
- 若手研究者が不足しており人材育成が重要。
- 近年、AMEDからの研究費も増えているが、関連した領域を含めた包括的な支援が必要。
- ヒトに投与できるウイルスベクター製造施設がほとんどない。

(敬称略・五十音順)

- | | |
|---------|---|
| 青井 貴之 | 神戸大学大学院科学技術イノベーション研究科 教授 |
| 荒戸 照世 | 北海道大学病院臨床研究開発センター 教授 |
| 岩間 厚志 | 東京大学医科学研究所 教授 |
| 岡田 潔 | 大阪大学大学院医学系研究科／医学部附属病院
産学連携・クロスイノベーションイニシアティブ 特任准教授 |
| 小澤 敬也 | 自治医科大学 名誉教授／客員教授 |
| 木村 徹 | 大日本住友製薬株式会社 取締役 常務執行役員 |
| 後藤 由季子 | 東京大学大学院薬学系研究科 教授 |
| 佐々木 えりか | 実験動物中央研究所 マーモセット医学生物学研究部長 |
| 島田 隆 | 日本医科大学 名誉教授 |
| 高橋 政代 | 神戸市立神戸アイセンター病院 研究センター長 |
| ◎ 高橋 良輔 | 京都大学大学院医学研究科 教授 |
| 武田 志津 | 株式会社日立製作所 専門理事／研究開発グループ技師長／基礎研究センター日立神戸ラボ長 |
| 妻木 範行 | 京都大学iPS細胞研究所 教授 |
| 中沢 洋三 | 信州大学医学部 教授 |
| 中村 雅也 | 慶應義塾大学医学部 教授 |
| 畠 賢一郎 | 株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング 代表取締役 社長執行役員 |
| 松尾 真紀子 | 東京大学大学院公共政策学連携研究部 特任准教授 |
| ○ 宮園 浩平 | 東京大学大学院医学系研究科 教授 |